

お客様と一緒に、 地球環境保全を推進しています。

地球温暖化をはじめとする環境問題は、地球全体の問題です。ですから、私たち一人ひとりが、環境に配慮した事業活動や生活を心掛けることはもちろん、地域社会や国を超えて、地球全体の環境改善に貢献していくことが重要です。コスモ石油は、2002年4月、コスモSS(サービスステーション)のお客様とともに環境保全を推進するためにコスモ・ザ・カード「エコ」を発行しました。9月末現在の会員数は、42,070名。今後も、積極的な活動を展開していきます。



コスモ・ザ・カード「エコ」の仕組み、入会方法については、裏表紙をご覧ください。

パプアニューギニアでの熱帯雨林保全活動

森林は、温暖化の大きな原因とされる二酸化炭素(CO₂)を吸収してくれるだけでなく、その根で、土を地表に固定することにより、優れた保水機能を発揮してくれます。森林が失われた土地に大雨が降れば、大量の土砂が流れ、大きな被害を及ぼします。森林が「緑のダム」と呼ばれているのは、このためです。

人口増加により、焼畑のサイクルが5~6年から2~3年に短くなっています。(パプアニューギニアの焼畑農業)



ところが、毎年、本州の約半分の面積の森林が、地球上から失われているのです。熱帯林保有国の多くは、経済的に貧しい国で、商業伐採が行われていることも大きな原因ですが、それだけではありません。これらの国々では、人口増加に伴い、農作物の収穫量を増やすために、農地を拡大する必要があります。パプアニューギニアでは、伝統的に焼畑農業が行われていますが、人口増加により、そのサイクルが5~6年から2~3年に短くなっています。

コスモ石油は、日本のNPO「オイスカ」と共に、パプアニューギニアの熱帯雨林を守るための支援活動を行っています。パプアニューギニアでは焼畑農業を行う一方、国家予算の15%が米の輸入に使用されています。私たちは、従来から、稲作の指導を行い、焼畑農業から定地型農業への移行を支援してきたほか、2001年度は、精米機と精米施設を寄贈しました。



定地型農業への移行を推進するため、パプアニューギニアに精米機を寄贈しました。

2002年度のプロジェクト

熱帯雨林保全プロジェクト

オイスカやAPSDなどのNPOとのパートナーシップのもとに、パプアニューギニア、ソロモン諸島の熱帯雨林保全を支援します。

国内希少自然保全プロジェクト

アルピニストの野口健さんとともに、「富士山」の世界遺産認定、「屋久島の杉」「白神山地のブナ原生林」などの希少な自然の保全を目指します。

エリ蚕養蚕プロジェクト

NPO2050とともに、環境破壊の進むフィリピン農村部で、エリ蚕の養蚕を核とした持続可能な農業の推進を支援します。

シルクロード緑化プロジェクト

NPO2050とともに、中国の「西部大開発」以降、砂漠化が進むシルクロードの各都市で、植林事業を推進していきます。

島嶼国(とうしょこく)環境難民プロジェクト

温暖化による海面上昇によって、国土存続の危機にさらされているキリバス、ツバルなどの島嶼国に対して、避難小屋建設や緊急物資の支援を行います。

棚田保全プロジェクト

小学生を対象に、さまざまな機能を持つ棚田での環境教育を行うとともに、棚田の修復・保全を進めていきます。